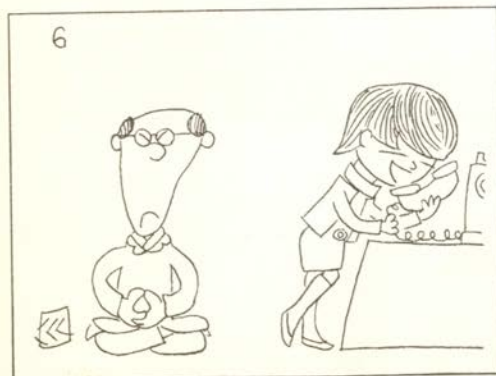
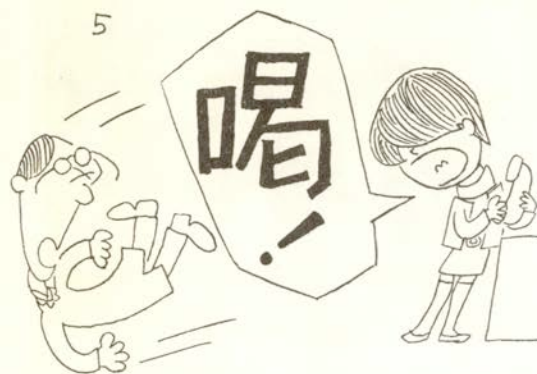




ベツゴ ② 回永井文明 回

神戸遊戯誌

30



1964年2月インスブルックで開かれた冬季オリンピック大会でフィギアの左より福原美和・大川久美子・平松純子〈旧姓上野〉の三羽鳥。

スケート

②

青木重雄

戦前六甲山スケート・リンクで育ったフィギアの有名な選手には、老谷や帯松のほかにも多くの人々がいた。現在にはすでに六十才以上になっているが、五十嵐信一（現在は三菱電機サービス課長）杉本清晴（三菱電機）本田修二郎、沢田健次郎、神田博選手の優勝の前年に全国フィギア選手権を取った陳さん（第一楼経営者）、倉橋新、哲太郎兄弟などで、いずれも各大会で上位を占めた記録の持ち主だった。

女性では、六甲山開発の恩人グルームの娘岸りゅう（五十才ぐらい）や安宅夫人（甲南高女卒）がいた。有名な女子世界選手権保持者のソニヤ・ヘニイをヒロインにした映画が日本で封切られたのは、彼女が優勝した昭和十三年から数年後だった。ソニヤに次ぐ第二位のオーストリアのブルガーは同じ頃日本にやって来てフィギアの妙技を眼前に展開してスケートファンの喝采を浴びた。神戸のスピード競技がフィギアに比べて多少見劣りがしたのは、当時練習場に恵まれなかったことも見逃がせない原因で、六甲山上池には三百メートルと二百メ

ートルの滑走路が各二つで、長野県などの広大な自然リンクとは比べものにならないかった。ただ、今日とは違い、どういうわけか、大正、昭和初年には十二月末から一月へかけて六甲山上は毎年積雪量が多かったため、スケーターは盛んに腕ならぬ「足技」を磨くことができた。

昭和十二年ごろから十六年ごろへかけて、神戸のスピードの普及のために大いに努力したのは浜田種一だった。一方、スピード競技で優秀な成績を残したのは神戸出身の明大の高林三郎選手で、昭和十二年の全日本選手権にみごと優勝したのをはじめ、各大会で好記録をあげた。現在同氏は兵庫県体育協会委員、県スケート連盟理事長、日本スケート連盟委員などを兼任しながら、東灘区の深江で後進の指導に力をつくしている。また、同じ明大の滑川（新聞地の肉屋のむすこ）も優秀なスピード選手だったが惜しくも日華事変で北京で戦死した。アイスホッケーもフィギアに比べるとスピードと同様少々見劣りがしたが、衆議院議員の砂田重民は立教時代、同アイ

スホツケー・チームの名フオワードとして昭和十五、六年ごろ活躍、全日本アイスホツケー選手権も獲得した。

戦後は昭和二十二年から各地の室内リンクが再開され、二十六年ごろへかけてスケーターの登場が軌動に乗ってきた。さらに二十八年末に深江スケート・リンクができ、それから、阪神間のスケーターの練習度はいっそう促進された。大学にもクラブが相ついで誕生、関学、神戸女学院をはじめ、神大、甲南(大学・高・中)、武庫川女子大、山手女子短大などが名乗りを挙げた。関学と甲南はフィギア、スピード、その他はフィギアにそれぞれ活躍、とくに関学、甲南、女学院の成績がめざましかった。だが、戦後の神戸スケート界の大収獲は、なんといってもフィギアの上野純子という「銀盤の女王」の出現である。毛並みのよかったことは母親の衣子さんがかつてのスケート界のホープだったことでもわかるが、家の近所だった深江リンクや聚楽館での母親の熱心な指導と、それにこたえた彼女の涙ぐましい精進によって小学生時代から頭角を現わし、昭和二十九年には全関西ジュニア第三位となり、さらに翌年優勝、三十一年には全関西チャンピオンとなり、同年四月全日本女子選手権を獲得した。この時、上野はまだ十三才で甲南中学の二年生だった。いくぶん足が弱いのが欠点だったが、幼時からバレーを習って身のこなしがよかったのとスクール・スケートイングの図型が確実だったことが強みで、その後も全日本四年間連続優勝(三十六年にも優勝、この記録は稲田悦子と対記録)したうえ、三十四年には全日本のほかに国体、フリーの三種目にも優勝して名実ともに日本一の子スケーターとなった。

その後彼女は国際競技にも進出、三十二、三十五年の世界選手権、さらにスコオバレーで行なわれた第八回冬季五輪大会などで活躍したが、日本の女王も国際試合のふんいきに吞まれたものか十位入賞もできず涙をのんだ。だが、彼女のファイトと負けじ魂はついに実を結んで、三十七年三月スイスのピラーで開かれた冬季ユニ

バシアードのフィギアで優勝して大会初の日章旗をあげることができた。女子の国際競技における記録としては、一九三六(昭和十一年)に母親のライバルだった稲田悦子がガールミツシユ大会で第十位になって以来の入賞であるばかりか、優勝したのだから大したもの、この優勝によって戦争を境に国際的に立ち遅れていたわが国の女子スケート界に輝かしい希望の灯がともされた。彼女としてはスケートをはじめて以来実に九年目の大記録だった。優勝の時「全く夢のようです」と彼女は語っているが、天才型より努力型だといわれながら、幾多の辛い試練に打ち勝ってきた、当時関学大生だったこの「神戸っ子」の喜びはわれわれの想像以上のものだったに違いない。一昨年第一線から退いて、昨年結婚、その後、後進の指導に当たっているが、彼女のファイトはいつまでも後輩のはげましのムチとなろう。

彼女と同じ時代ほかにモフィギアにいい大学生選手がいた。神戸女学院の宮川住子、細見みき、関学の歌川絃次、飯田常俊、博田淳などが著名だが、細見は後にプロに転向した。また大阪では稲田のほかに全日本に七回優勝の五輪代表佐藤信夫(関大卒)や女子の大川久美子(全日本第二位)がいて、戦後の各フィギア競技の優勝を独占して、関西スケート界のために万丈の気を吐いた。

神戸六甲スケートクラブは戦前で解消、今日兵庫県には大きな組織として県スケート連盟(各府県連盟の一単位)が深江リンク内に設けられ、高林が理事長、上野衣子が同フィギア副部長となり、社会人、学生などの一般指導と技術向上につくしている。現在の同連盟の登録会員は三百五十名だが、未登録の人を入れると県下に五百名以上のスケーターがいるが、年令的にはやはり二十才前後の若人が圧倒的に多い。これらの人々の中から光栄ある県下のスケート界の歴史をさらに輝かす名選手がこんども多数出ること確実だろう。(四一・一・十五)おことわり 前回の帯谷選手は帯松の誤りでした。

神戸うまいもん巡礼

No. 42

赤尾 兜子

各国料理の巻



炭火でじっくり焼かれるミヤスのステーキ

神戸は各国

の料理が豊富である。関西でもそのバラエティは随一といっている。その各国料理に、インド料理の店が加わった。デリー（生田区下山手通四丁目、国鉄元町駅東口から北へ百五十メー

トル）である。三十九年の開店、インド人から料理を習った日本婦人が経営する小づくりだが、キッチンとした店である。

世界一の宗教国インドでは、国民のほとんどが、ヒンズー教と回教を信じ、そのおきてのせいもあつて、牛、豚は食べない。鳥、卵、マトン（羊肉）、魚なら食べる。そしてたいの料理に、カレー（原語でカリ）の名がつく。カレーとは、そのもとはソースから転訛した言葉で、西洋料理にソースがつきもののように、インド料理にはインドのいわばおかずのカレーがつくと知ればいいわけだ。いろんな香料、調味料をあわせて、そのカレー

の素を作るのである。

この店の客は、インド人と日本人が五分五分。いきおい本場ふうには料理をこなしている。ここでおおまかに、インド料理を楽しむには、ランチ（鶏ランチ三五〇円、野菜ランチ三〇〇円）が、よからう。まずメリケン粉に野菜、鶏肉をつつみこみ、三角形で、一見中国の揚げワシタスタイルのサモサがでる。これにチャニ（わさび）をつけて食べる。ついで、ロチ、バラタ、テブラといった名のメリケン粉をうすくのばしたインドパンとカレー、野菜、つけものの四品が出る。パンをちぎって、カレーにつけ、あとで野菜を食べるといいが、すべてに独特の香辛料が使っており、香辛料に弱く、とかく抵抗感をもちがちな日本人も、食べなれると、その独特の個性を、解するようになる。そのうえこの味つけは、それほど抵抗感はない。

カレーライスの一品は各二百十円。ビーフ、チキン、ユフタ、マトン、卵の五種あるが、日本人にはビーフとチキンがなじみやすい。

インドの人たちは、スプーンなど使わず、指先で実によく食べている。

ついでに神戸肉をうまく、そしてほどの値で食べさせる店をあげておく。ミヤス（生田区北長狭通一、三劇北、西入小路）である。開店いらい七年、主人の美安節司さんの姓を店名にした。大阪で洋食の腕をみがいた人である。

レストランというだけに、かなりのメニューがあるが



カレーをきかしたインドの味……デリーのランチ

やはり神戸肉の炭火焼きのステーキを推す。ニンニク、サラダオイル、シェリー酒などに漬けた肉を、店の一隅で炭火にのせて、じっくり焼く。それが客席からもみえる。上部はややこんがりと焼け、中はじっくりうんだ肉の厚ぼったいところが残り、口に入れると、それがまぜあいになって、うま味になってノドへくる。野菜、サラダがつく。ヘレは七〇〇円(小)一〇〇〇円(中)一三〇〇円(大) ロースは一二〇〇円(中)一七〇〇円(大)と量と比例して値をつけているが中くらいで十分カウンターと二テーブル、せいぜい十数人ぐらいが収容の最大能力というちいさな店だが、いまだに電話も引かないところを見ると、ちゃんとなじみ客で、店の経営



本場神戸肉の味覚、ミヤスのステーキ、左上はサラダ

は成立しているということらしい。もうそれくらいに知れわたっているという意味でもある。毎日開店までに、肉をきれいに丹念に、仕分けしているのも、肉という材を第一にする店らしいと思ったことであつた。だんだん良質の神戸肉の入手がむづかしいと聞いている。しかし神戸という、関西の中でこの手ごろな街には、マスプロ化しない店がいくつか残存してほしいものだと思ふ。そういう店で、手をぬかない、丹念な料理がつづけられること、それがいかにも神戸らしいのである。とくに西洋料理において。そんな意味で、この店など、そのひとつの例といつていいだろう。

紳士入門 ③⑥

How to be a gentleman

科学者紳士



文・竹田洋太郎
え・石阪春生

ノーベル物理学賞をもらった朝永振一郎博士夫妻はさきほど国会で参院の祝賀決議を受けた。その後重宗参院議長に「国の科学予算をもっとつけていただければ、ノーベル賞の十人くらいは軽いものです」と語った。

これを新聞で読んで、筆者は「いよいよ日本にも、科学紳士」なる新しい紳士が出る時代になった」との感を深くしたのである。というのは、朝永博士、古典落語に造詣深いと聞くが、さきの発言のごとく、謙虚にして真面目、しかも政治家にとって耳の痛いことをズバリといひ、かつ学術会議議長としての職責をそこにこめているような、この短い言葉を出せるだけの紳士道をわきまえておられるからである。

もちろん、前にノーベル賞を受けた湯川秀樹博士もその態度、発言は紳士といえるものである。だが、繰返しているが、紳士はときに対象にイヤミをいい、それをイヤミと感じさせず、あとで「ヤラレタ」と思わせることができるなくてはならない。その点朝永博士のごときは、紳士の言葉の出し方を充分心得た人物というべきだろう。

科学者といえば、いままではわれわれの社会生活であまり見かけない、いわゆる「象牙の塔の住人」と考えられていた。また、たまに見かけることがあっても、社会人としての交際は短期間で、あとはすぐ「専門領域」と称する基地に帰投してしまうのが常であった。しかし、最近では、われわれが出没する夜の各基地に科学人を見受けることも多く、また有名な家系であれば、そのうち必ず一人以上の科学者を見出すのである。そして科学者はもはや「変人」ではなくなったのである。

そこで、科学者諸氏も交遊、活動の範囲が広まるともに、紳士としての修業を行う必要に迫られてきた。たとえば、若手の助教授クラスも、予算の許す限り、いや予算がなければ自腹ででも、海外で開かれる学会に出席し、世界の学者と交流するのみでなく、ウィーンの屋台店のソーセージは、どこの店のがいちばんうまいとか（ウィнна・ソーセージがあるから、ウィーンにはソーセージの屋台店があるだろうと、推測でいっているのではない）。科学的な論拠に立っていつているのであるが）ときには、ローマの街に立つ女性から「プロフェッソレ」と呼びかけられ「オレのことをどうして教授（実は助教授）と呼びかけたのか」とニヤリとするような経験も豊富に有するようになってきたのである。

一方科学者は貧乏だ、という常識も近ごろでは決して当てはまらなくなっている。科学者は金をもうけるのが商売ではないから、ウナルほど金を持っているはずもないが、ときに「産学協同」で一流バーを飲み歩いたりする程度の余裕もないではない。またその場合、女性にもてるのは、お金のある「産」の方ではなく「学」の方であることも我々は見聞している。女性は「学問」とか「研究」とかの神秘のベールに包まれた領域の住人に一種の魅力を感じ、また若い科学者は世間知らずのお坊ちゃんだから「かわいがってあげたい」と思いたがるからである。もっともそれは大抵の場合、女性の迷信に過ぎないので、腕こきの新聞記者にも実は世間知らずもおれば、象牙の塔の住人で、先日来株で大もうけした人物もないではない。

ポケットジャーナル



関西はじめての総合雑誌 「オール関西」誕生

雑誌が育たないといわれてきた関西で、総合雑誌「オール関西」創刊号がはじめて出版され、一月三十一日、書店の店頭を飾った。表紙は早川良雄氏のデザインによるヴィーナス誕生をアレンジした豪華なもので、内容は特集企画「世界に飛躍する具体美術」でグ



タイビナコテカを、「関西の舞台から」では文楽、そして「関西うまいもん百選」などの関西色を出している。また「時事鼎談」は神戸大の小島輝正教授、京都大の会田雄次教授、大阪スタジアム社長の浅田敏章氏。小説は田辺聖子、邦光史朗、三好三千子の三氏。

今東光、富士正晴の放談随想など関西在中の作家が執筆。そして家庭でも楽しめる雑誌と女性欄、娯楽欄も盛りこんだグラビア、カラー頁と豊富な内容である。

「関西でのジャーナリズム確立」をめざす雑誌だが早くも二号三月五日発売が待たれている。

「週間誌大のB5版、二〇〇頁定価一七〇円 発行所大阪市北区西寺町二ノ八ニュー八千代ビルオール関西編集部。神戸っ子編集部でも取り扱っている」

ご用になった電話魔

インク魔に続いて、人騒せな電話魔が神戸でつかまつた。生田区に住む鈴木という五十男。正月あけ、酒を飲んで一〇番していたずらが成功。以来毎日のようにパトカーをきりきり舞いさせた。

その日、わざわざ長田区まで出張して「近くの喫茶店で人殺しや」と電話。これまでもさんざん煮え湯をの

まされてきた県警は、とっさに声で常習犯と判断、勝手におしやべりさせておいて逆探知、公衆電話をつきとめた。逮捕に向かったパトカーは五台と、大捕り物。なみ。

あつさり御用となった鈴木は「ナントカ魔が出没するのを新聞で読んで、面白半分にやった」と、インク魔河本と同じような自供をした。その夜、彼は一一〇番してつかまるまでナントカ三十分の長電話。中年のいやらしい抵抗としつこさそのまま、と警官もあきれはてていた。

朽ちはてる「六角堂」

舞子海岸の風景と切り離せない「六角堂」が痛みきって倒壊寸前。新聞などで修復してほしい、と市民の声が反映されているが、情勢はどうやら見捨てられる公算が強い。

正しくは「移情閣」。八角形の幾何学的木造建築だが、遠くからは六角形に見えるため、通称が有名になった。大正五年、呉錦堂によって建てられたこの建物は、中国革命の父・孫文や康有為が滞在したという歴史的ないわれもあり、多くの画家の画材になった。だが、昨年の台風で浜側はめっちゃめっちゃ。潮風にさらされてひどくなる一方だ。県立公園として一帯を管

「誕生日 ありがとう」 運動



年に一度迎える誕生日に、健康やかな心身を恵まれた幸福を感じ、恵まれない人達の上に暖かい思いやりの心をかよわせようというこの運動も、昨年の五月八日献金第一号をいだいてより順調に成長しています。

そして、この成長を支えて下さっている除の力がボランティア（自発的奉仕者）とよばれる方々です。

運動本部によせられる全国からの激励のお手紙、感想をつづった作文、献金者などは、目増しにふえています。ボランティアはこうした連絡や、しおりの編集、PR活動などをすすんで引受けて下さっているのです。本部には現在、約三十名のボランティアの方が奉仕活動を続けていますが、学生、主婦、サラリーマンetc……。皆さんそれぞれに忙しいなかを時間をさいてこの運動に、協力して下さい。

小さな手から
愛は燃えて
炎となる
耳をすませ
友よ

君の心に
くっつくない
幼い笑いこえが
聞えよう

（40・12・31 朝日新聞社説より）

この運動にご協力下さる方は運動本部までお申下さい。

誕生日ありがとう運動本部
神戸市長田区前原町一―
市立室内小学校内
TEL 〇九一七―八

理する県当局は、この事実

を知っている、修理費に
三千万円かかること。復旧
しても公的建造物として利
用する価値が低いこと―な
ど理由に、自然に倒壊する
のを黙視する方針。やむな
く建て物を管理する神戸中
華青年会(何紹麟会長)が
募金活動をするという。

そこで期待が集まったの
は神戸市当局の出方。同青
年会も、夢のかけ橋の関係
建築物にでも……とかたず
をのむ思いだったが、市は
「それより先きにあること
が多すぎる」と見逃しのか
たち。倒壊―消失を惜しむ
人たちの、いまでは、あき
らめざるを得ないというて
いる。

質草、今年のアナ場は カラーテレビ

神戸質屋業報の座談会
「質屋の商況はどうなる
か」をみると「今の青年は
サラッピン」の三つボタン
は買うが中古の三つボタン
は買わない。マスプロや広
告が男のおしゃれを宣伝し
ているが、メンズ・フアッ
ションクラブの発表による
と、今の流行はツーボタン
のハイネック。衣料品で売
れるのは中年向きのもの。
また時計、トランジスター、
テープコードはもはや時代
遅れとなり、今年のアナ場
は日本調の木目張りのステ
レオとかカラーテレビにな

る」形勢だとか。

詩人君本昌久

詩と絵画展を開く

詩人の君本昌久氏が、一
月十五日から一週間ナシヨ
ナルギャラリーで詩集「悲
歌」(蜘蛛出版社八〇〇円)
の発行を記念して、絵をう
けもった網谷義郎氏(新制
作)と「詩」と「絵画」の
二人展を開いた。



ナショナルギャラリーで君本昌久氏

会場には君本氏の「自画
像」数点が網谷氏の「絵」
と並んだ。よくばりやな
し、と観にきた友人は感嘆
し、「絵かきではないので、
気にせずのびのびと絵を描
いているので腹が立つワ」
と網谷氏をうらやましがら
せた。また君本氏は「今年
は小説」を三本ほど書く
や。」とますます多才ぶりを
発揮。詩のなかにとじこ
めるのではなく、詩を根拠にゆ
きたい」と意欲的。詩と絵
画、詩と音楽、詩と書道な
ど組み合わせは面白い。ぶつ
かりあう力のなから、新
しいものが生まれるのが

楽しみだ。

ブームを呼ぶかNHKテ
レビ「源義経」にあてた
神戸の「源平遺跡探勝ル
ート」

NHKテレビの人気番組
だった「太閤記」につづい
て「源義経」が尾上菊之助
という適役を得てすべり出
し好調。「週間朝日」や「オ
ール読物」など小説にも義
経が連載され初めて、今年
は義経ブームになりそうな
気配である。

ことに神戸は源平合戦の
ゆかりの地。能、義太夫、
長唄など古典芸能のなかに
は義経、静、清盛、敦盛な
どのドラマチックな場面は
数多く、神戸つ子にもなじ
み深い。こんなときに神戸
市観光課が、神戸港開港百
年の史跡開発と同時に「源
平遺跡探勝ルート」も開発
したいというグッド・アイ
ディアを考えだした。

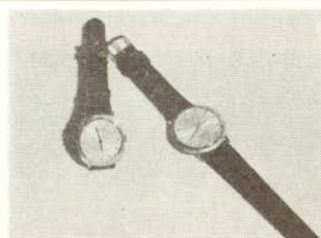
「花の生涯」では彦根城
が「赤穂浪士」では赤穂が、
さて「源義経」で神戸の源
平探勝ルートがブームを呼
ぶか?! 神戸史談会など歴
史研究家も多いのだから、
よきアドバイスを得て、子
供にも、大人にもよく判る
楽しめるルート開発にして
ほしいもの。

えびら飴、敦盛そば、青
葉の笛では源平合戦になら
ないから、義経せんべいや
静まんじゅうを出すとか、
義経の八咫飛び人形をつく

★はいからコーナー

センスのあるあなたのためにお
奨めする腕時計、それがフアンシ
1ウォッチです。いままでの実用
時計とはまったく逆なデザインを
かえたおしゃれ専用の時計です。
針は2本しかなく、クラシックな
型が魅力。セカンドウォッチ用に
これから流行りそう。

写真右 ¥15000 左 ¥9500
(さんちか美田時計店)



★ティータム

生田神社を少し下ったところ
にある純喫茶「ウィルキンソン」
開店以来20年という老舗、シャ
れたスタイルの建物が魅力。店内は
3階まであり、落着いてくつろげ
る。客筋は実業家、BG、学生な
どが多い。

AM10:00~PM11:00まで営業
コーヒー ¥120



とか、またミナト祭に源平合戦絵巻をくりひろげるとか、この際市役所のアイディアにあやかっ、市民も知恵をしぼって「金もうけ」を考えてはいかが？

全国初の「労働都市」 北須磨につくられる

全国で初めての労働者だけの団地が北須磨に建つ。県住宅生活共同組合が兵庫労金の援助で、多井畑の山林を切り開き二千五百世帯、約一万人を収容する大団地計画で、今春着工。来年初には一部分譲住宅ができる。総工費五十五億円で五年計画。小学校、託児所から内職あつせん所、共同菜園まである完全な「労働都市」だ。

計時花



神戸文学学校

神戸で文学学校が開設されるらしい。市民同友会が中心となつて実現するということであるが、大阪文学学校を範として神戸にも文学学校ができるのである。安い授業料で、市民に文学的教養の

ところで関心のマツは価格。分譲は頭金八十万円、残り十八年間に月八千円から五千円を支払っていくシステム。賃貸し住宅は公団よりやや低いけどだが、いくら労働者団地でもこれ以下ではという話。

そのかわり、販売や学校給食、授産所の職員には団地の主婦を採用し、助け合う団地というカラーを強く打ち出している。

人気を呼ぶ神戸の 駅弁「肉めし」

「神戸肉をつかったローカル色ある駅弁がほしい」という駅弁ファンの声うけて神戸駅構内にある折詰専門の淡路屋(寺本淳巳社長)が研究をかさね、国鉄に申

糧となる講座を開くというのだから、結構なことである。

文学は教育できるものかどうか。これは、いつだったか文壇で問題になったこともある。否定的な考えの人が多いようであつたが、必ずしも文学教育が不可能ではないという意見も成り立つようになっている。大阪の語であるが、伊豆田寛子さんという主婦の作品が、最近「文学界」に掲載されていて、これは大阪文学学校の雑誌「新文学」に

請して昨年九月末認可が降りた。と同時に神戸名物「肉めし」(二〇〇円)として売り出された。一日二百個ぐらいいでスタートした駅弁は四年末の帰郷シーズンには四千個も売れる上々の評判である。

肉は大井肉店の味味した上質のものが駅弁で味味するのだから文句はないし、味つけめしの上に金糸たまごに肉が並び、つけ合わせにサクランボ、オリーブ、オレンジが色どる。

神戸からの旅立ちにおみやげにもなるし、団体旅行やピクニックにも向き手軽に神戸肉が味合えるのが良い。またうまいもん神戸のレパートリーが増えたようだ。

発表されていた作品である。文学学校の生徒が、立派に育った好例といえるであろう。ことがらは単に文学だけのことでない。文化一般につづる問題であつて、文化を創造する者とそれを享受する者との連帯がないかぎり、文化の前進はない。それによつて享受者がやがて創造者に進みでる道も開けてくるのではないだろうか神戸文学学校の行方が注目されるゆえんである。成功を祈りたいと思う。

(M)

百店会だより

★セントラル街 若人の服飾で同じみの「マック」代表取締役植村忠三氏が、去る一月一日、心臓麻痺のため急逝され、同十九日午後二時より賛合区の東極楽寺にて告別式が行なわれました。心よりお悔み申し上げます。

★東宝映画「赤鯉」で黒沢監督にスカウトされた内藤洋子氏が神戸銀行の専属モデルとして、秋山ボ太郎氏の撮影でパンフレット、ポスターに登場。ところがそのポスターが人気を呼んでおり、わざわざ神戸銀行広報課へもらいに来る者もいるとか……。なお、この内藤洋子、テレビドラマ「水点」に陽子役で出演、清純な彼女をごらん下さい。

★二月二十日から三月三十一日まで、神戸電鉄四十周年記念行事として、神戸新旅客協催による有馬温泉祭りが行われます。歌謡ショー、絵画・写真コンクール、マス約大会、ゴルフ大会などスケジュールもいっぱい。ご家族づれで、ぜひ有馬温泉古泉閣へどうぞ。

★トア・ロッドの婦人帽子マキシオンでは、三月三、四日の二日間、三宮ビルで春・夏物新作展示即売会を行います。今年の帽子の流行は軽いエレガントな感じのレース調、メッシュ調のもの。また材料をそのまま使用するのでもなく材料がわからないように手芸的に加工されている。そのほか、あらゆる種類の帽子を取揃えて皆様をお待ちしております。

★おわび

新年号、藤木高嶺氏を囲んでの座談会で「ベトミン」が「ベドウィン」の誤り、71頁写真説明「アブヒダード」が「アブヒヤード」76頁二段「断熱器」が「断熱箱」77頁「金物箱」が「金属箱」以上を訂正しお詫び申し上げます。また武田繁太郎氏を囲んでの座談会記事中の出席者の名前の中で土居春子様は貞子様の誤りにつき、お詫び訂正いたします。



世界のめがね
光学品 豊富品揃

服部メガネ店

大丸前 TEL (33) 1123

木枯らしが吹きぬけるころお部屋では
電気皿がいつでも温かいお料理を!



あらゆる電化製品の店

元町電機

元町6丁目 (34) 5847・6581

ドブネズミ野郎



ところで、われわれネズミ族にも、どうしようもない一族がある。あのドブネズミ野郎だ。今までは下水道や川岸をナワ張りとしていたが、下水道工事や高速道路を作るために川を埋めたたたりで、ナワ張りをろばわれたドブネズミどもが近くの盛り場やビル街に移動し始めて来た。われわれ先住者クマネズミ族

に、どうし
ブネズミ野郎
ワ張りとして
作るために川
うばわれたド
ビル街に移動
クマネズミ族
にとつてはた
まったもので
はない。

き、さつ会を開設し、その防衛手段につくいて論じ、たつが、か弱きわが、クマネズミ族にくらべミ族はあまりにもドブネズミ族に、今までもわれわれのナワバリ張りとして、たつとこそは、食べ物もたつふりあり、住みごち満点とあって持前の強い適応力を生かして、今では完全に

住みつてしまつた。デパートのような清潔な場所もまだわれわれのナバ張りになつてゐるが、それでも地下とか屋上の食堂付近は完全にドブネズミに占領されてしまつた。またあいつらの狂暴さといつたらひどいもので、食物が欠乏すると親子、兄弟の見さかぬものぐ共食ひする。我々ネズミ族の風上にもおけない野郎である。

ネズミ族が人間どもにあたえる害には、か
 じる。ことと、もう一つ、食うこと。があげ
 られる。だいたいわれわれは大食家であられ
 ているが、普通一般に日本全国の家ネズミだ
 けで、輸入食糧を全部平らげてしまう計算に

なるといわれている。しかし、これも食うか食われるかのせちがらい世の中、人間どもの世界とて同じである。

ただ、それにもまして、人間どもにとって一番われわれをおそれるのは病気の媒介であらう。この強本人がドブネズミ野郎。あいつからとらえた本当にはない野郎でドブを泳いで渡ったり、便所に入った汚物を食べたりする。食中毒を起すサルモネラ菌、大腸菌、赤痢菌などを身体中にくっつけて走りまわるのだからそうなることをいえないものではないが、ドブネズミにくくらべたならわれわれクマネズミははるかに可愛いがあって、チュー太さききではむしろうすよこれた魅力、でもいっけな。

お恥すかも知れない。……ネズミ算というやうなやつが、われわれネズミ族の生やふやせのあのオウセイな繁殖力からつけたらしい。人間どもの社会では産児制限だのうら若き女性が読む週聞誌まで、堂々と避妊法など記されているが、われわれの社会ではナンセンスである。戦時中のどこかの国ではないが、やはりきびしい世界で生き残るために、子孫をふやさねばならぬというわけだ。

クマズミ族は一腹のきの数は五、六匹であるが、ドブネズミは八、九匹も生む。ただだ、食物を許さず、という制限がつく。だからこの頃は、人間どももしこくなくて、兵糧攻めなる手段を用い出した。それで、いかにネズミといえども食物に対する好き好きがある。かくいうチュー太さまも、食通とおっている。どこどこへ行けばどんなにかいものがある。なんでもいうのはすぐわ

しかし氣をつけねばならぬわれわれの好みをまず調べ、しばらく同じものばかり置おく。我々として、そこに行けば好物が手に入る。そこで調子に乗って通い続けるとそのうちあわれコロリと毒殺!!

いやはや住みにくくなりました。

この頃ではその上に消毒会社なるものが登場し、あの手この手でわれわれにちょう戦してきたようである。

ああ、メンドーみきれない。

☆ ☆ ☆

害虫の被害からお守りします



一回全滅責任保証

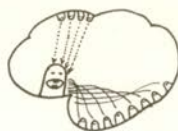
南京虫・油虫・白アリ・家ダニ・ネズミ一般消毒

アイワ消毒株式会社

お気軽にご相談ください〈調査相談無料〉

本社 神戸・生田区栄町2 TEL ③③0854

『神戸っ子 の会』 会員募集



月刊「神戸っ子」は、神戸を愛する人々の手帖として、阪神間はもろろん、全国に数多くの愛読者をもっています。皆さまの暮らしに楽しい夢をおくる雑誌、神戸を訪れる人にはやさしい道しるべとなる雑誌、それがこの「神戸っ子」です。また「神戸っ子」は神戸の新しい文化をつくりだす一つの拠点でもあります。

このたび、「神戸っ子」編集部では読者の皆さまと「神戸っ子」をよりいっそう親密に結ぶ虹のかけ橋として、このたび「神戸っ子の会」(Kobe Friendship Society)を結成することになりました。皆さまのご入会を心からお待ちしております。

「神戸っ子の会」(K・F・S)とは、こんなグループです。

①「神戸っ子」の読者の集いである読者の方々の親睦を深める集いで

す。

②神戸の文化は「神戸っ子」から生まれます。「神戸っ子の会」は神戸の文化をつくりだす有力な母体です。

③郷土の歴史とよい伝統を受け継ぎ、さらに高く発展させてゆく会です。

④政治・経済・文化という3本柱をひとつに結ぶ会です。

⑤現代っ子のセンスと教養を高める会です。

⑥絵画、音楽、文学等のすべての文化領域において、新しい才能を発揮する広場です。

「神戸っ子の会」の会員には、次のような特典があります。

①毎月「神戸っ子」をお届けいたします。

②「神戸っ子」編集部で主催するさまざまな催しに、自由に参加することが出来ます。たとえば、次

★月刊神戸っ子五周年記念

神戸っ子祭り

前夜祭

3月14日〈月〉午後6時～9時

*仮装ダンスパーティー

〈ダンスを踊れない方でもすぐに踊れます。うまく仮装した方には賞品をさしあげます〉

●会員券 700円

神戸っ子祭

3月15日〈火〉午後1時～4時

*神戸っ子の会発足五周年記念講演会

●会員券 300円

*3月15日〈火〉午後6時～9時 神戸っ子五周年記念パーティー

神戸っ子祭り

祝賀会・酒祭り〈神戸酒徒番附授賞式〉・らくがきフナッシン・シン・シン

●会員券 1500円

★オリエンタルホテル 二階大ホール

★月刊「神戸っ子」の五周年を記念して三月十四日、十五日に「神戸っ子祭り」を開くことになりました。

神戸っ子愛する人々の楽しく愉快なプログラムを企画しましたので、ぜひご参加ください。会員券の申込みは神戸っ子編集部〈神戸市葺合区御幸通八丁目九ノ一国際会館1階 TEL 227-0377〉及び神戸百貨店の加盟店へ、料金をそえてお申込みください。さつそく切符をお送りします。なおダンスパーティーの会員券は二十枚を売って下さった方には一枚ご招待券をさしあげます。

また神戸っ子祭を記念して、安水椋和氏の作詞、徳永秀則氏の作曲による「神戸っ子の歌」を発表して、神戸っ子に親しまれる愛される神戸の歌が発表される予定です。ご期待ください。

〈神戸っ子編集部〉

★神戸百貨店 クイズ当選発表

昨年クリスマス号で神戸百貨店クイズをいたしましたのが、沢山の応募ありがとうございました。正解の方のなかから10名様が当選されました。お名前と住所、賞品をお送りいたします。賞品はすべて百貨店の加盟店の商品です。なお10名の方に神戸のハンカチ1つを記念賞でさしあげます。

★当選者
住友美恵子 池田市緑ヶ丘 小野治一 神戸大学寮 武内齊 東灘区本庄町 米田美也 最良区津島 菊地裕子 生田区元町 石淵昭子 葺合区熊内町 井上明代 明石市林八町 島田由緒 須磨水族館内 上月美治 芦屋市須屋 大西こさく 豊中市笠ヶ池

★残念賞
岡美智子 西宮市天道町 山口富次郎 葺合区熊内町 朝永修 六甲区三宮町 前田みね 篠田徳生 藤野俊彦 兵庫区湊町 亀田富久子 須磨区千守町 小林幸和 尼崎市 紀摩子 長田区御船通 桑田芳男 垂水区東垂水町

のようにな催しです。

(一)一流作家・学者、芸能人を講師に迎える行なう講演会。

(二)「神戸っ子」特選名画鑑賞会。

(三)美術展覧会見学、古寺巡りなどを目的とするバス旅行。

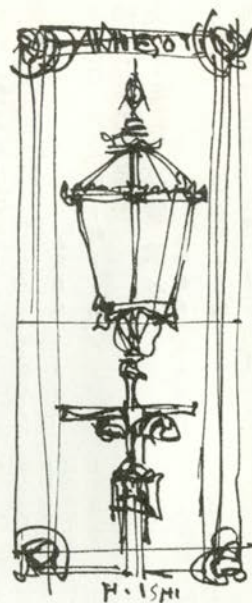
(四)神戸のうまいもんを食べる会。

(五)神戸百貨店でお買物をする方に関する便宜を図ります。

無料ご招待の催しもありますが、催物によってはその都度実費をいただく場合もございます。

★「神戸っ子の会」に入会するにはどうすればいいのでしょうか？
申込用紙(神戸っ子編集部用意してあります)に所定の事項をご記入のうえ、入会金二百円と会費三百円を、神戸っ子編集部へ納めていただきます。入会証をさしあげます。その翌月からは毎月会費三百円を納めていただきます。

★ 異人館物語 ★



連載第一話 《一の谷異人館》 ③

モルガンお雪

小山 牧子 え・石阪 春生

□前号までのあらすじ□

アメリカの大富豪、ジョージ・デニソン・モルガンに落籍され、彼の正妻になって渡米した雪は、十年のち日本に里帰りして、須磨一の谷の異人村にある西洋館に仮り住いをはじめた。そこでの風物のすべてが、雪に過ぎた日々を思い出させる。京大生であった恋人俊作、モルガンとの意に染まなかった結婚……。

しかし、十年の年月が経ち、いつの間にか、モルガンと雪の間に美しいデュエットが奏でられるようになっていた。

モルガンお雪の住んだ山荘から五十米ほど南へ下った空地の中心に、安德稲荷の朱色のお社が、木立の緑と映りあって海からの風をうけている。

七〇〇年の昔、八才になるかならぬ安德天皇を擁立した平家一門が、この地を内裏に定め、権力と栄華の時代を再び呼び戻そうとしたが果さず、「海の底にも都があるのですよ」と言って聞かす二位の尼の腕に抱かれ、帝が入水を遂げられた後、弥兵衛宗清が帝の御霊を祀るために建てたものであると伝えられ、平家追討の目を逃れるために「お稲荷さん」としてまつり、土地の人々は、それ

を安德稲荷と呼び供養を続けている。

一の谷に住んでいた間、雪は、朝夕この安德稲荷に詣でたものであった。当時の雪には、まだ西欧の唯一神キリストとの精神の深奥での出会いはなく、かと言って、モルガンの愛情にだけすがって、見知らぬ他国に住まねばならぬ雪にとって、目に見える存在に護られたいという願いは切実であった。彼女の心に、祇園の花街にいた頃よくお詣りした伏見のお稲荷さんの思い出が蘇ってきたのであろうか、雪は、この安德稲荷の熱心な信者になった。

いま、この安德稲荷には、雪のありし日をしのばせるように、雪と彼女の母親コトの名を刻み込んだ石灯籠が風化したまま立っている。それは、一人の波乱に満ちた生涯を歩んだ女性のひと時の魂が、一個の石塊に、がちりと定着したものであると言えるのではないだろうか。朝露でぬれた草をびたびたと踏んで、お稲荷さんの祠の前にひざまずき目を閉じると、心は、十年の年月を一挙に飛び越え、長い友禪の袂をなびかせ、伏見のお稲荷さんにお百度を踏んだころの思い出がよみがえってくる。

「山下さんと一緒にいたいんえ。どうぞご利益さずけておくれやす……。」

顔を紅潮させて、厚いコッポリで百度石を踏んで駆けた二十才の雪であった。

なぜあれほど山下俊作という男が好きであったのか。いま、モルガンの貞淑な妻として生きる雪であるが、あれほどに思いつめた自分の若さと、充たされずに過ぎた青春へのいとしさが確実に熱い涙となって胸の深みからふくれあがってくるのだ。

二十才になった初夏、京都大学のクラス会が木屋町の桔梗屋で開かれた時、そのお座敷に呼ばれた雪は初めて山下俊作にあった。

その日、彼は、楽し気に飲み、唄った。初めて会った日から十年の年月が二人の間に流れ、雪の胸の中で、そ

の面影は薄れていったが、その日以後、酔うとすぐに口をついて出る彼の十八番、鹿児島地方の民謡が甘い感傷をともなつて、時折、雪をゆするのである。

おいどんが、ちいけいときにや

がねとりをすいもして

がねはとえやろじ

ねちもどった

(わたし小さかつた時は、かに取りが好きであつて、かには取れず、泣いて戻った)

その時も、雪は淋しい気質の女であつたのであろう。

仲間の芸者たちが、京大生でも金持のボンチや商家の若旦那に熱をあげている時、彼女だけは、苦学生で年令も普通の学生に較べて四、五才も上である俊作に興味を持った。そして、やがて俊作の下宿に遊びにゆくようになり、何くれとなく彼の世話を焼くようになった。

それは、当時の京都の女の風潮であるといつてもよかつた。京都に、東京と同じ大学ができた直後で、女たちは、みんな角帽の大学生にあこがれ、娘のいる上流家庭では家ぐるみ大学生との交際を求め、芸者衆は身銭を切つて大学生に貢ぐものもあつた。

山下俊作は、明るい性質の反面、一人でいる時は不思議に孤独な影を持った男でもあつた。それは、彼が経てきた人生航路が、他の大学生にくらべてけわしいものであつたからと、当時の雪は更に恋情をつのらせたものであつた。

最初に入学した東京大学は学資が続かず中退、その後文部省の書記、大阪に移つて外国貿易商に勤め、学資を貯めて京都大学に入学した時は、すでに二十五才を過ぎていた。

京都にやつて来るまでの経歴からみて、彼が強い意志の持主であることがうかがわれる。恋人の俊作をあきらめ、モルガンと結婚したあと二、三年、雪が遠い他国で京都の風物を思い出す時、そこにはいつも俊作の時々の表情や動作が二重写しになつて彼女の胸に焼きついてい

たものであった。

白いカスリの着物に仙台袴の彼が南禅寺で禪修行をしていた夏、寺は、深い緑の中に沈んでいた。不思議に二人のふれ合いには夏の記憶が多かった。

藍染めの太輪の菊の花の柄をあしらったゆかたに朱色の帯を結んだ雪が、お座敷を抜け出したその足で俊作と

しかし、俊作の側からはどうであったか。良家の息子ならば、好きになった女を落籍して女房にしようというおらかな気持になれたであろうが、彼は、毎日食べる物をつめて学資を貯金してきた男である。彼の胸には、立身出世の志がうずまいていた。そして、志を果すためには手段を選ばない、ある意味では打算の甲羅で体中を



共に、夜が明けるまで語り合って過した加茂川のほとる狩り。どの折にも彼女は俊作と向き合った時だけ、自分が解放され、積極的な気持になれた。女は生涯に幾度このような気持になれることがあるだろう。多情な女ならば幾度も経験することであろうが、雪は、花街で生きるにはめずらしいほどにつつましく、純情な女であった。

つくしてもつくしても、つくし切れぬ気持で雪は俊作に愛情を傾けていった。苦学している彼に学資を与え、下宿屋へ訪ねて行って、つくろいものから洗たくまで、まめまめしく彼のめんどろをみる雪であった。

堅くしていたのだ。それに、一時の熱情につきあげられたとしても、彼には芸者を落籍させる金などいつになっただけで見るか見当もつかなかったのである。

二人の恋は絶望的な様相を帯びていた。

俊作が三年生に進学したところから、彼は雪を避けて暮らすようになった。

雪が、いそいそと彼の好物を重箱に詰めて下宿を訪ずれても、行先も告げず外出していることが多く、火の氣のない部屋に坐って、いつまでも雪が待っているといった日がかさなりだしたのである。卒業を目前にひかえて

俊作の心は、雪の献身を重荷に感じていたのだ。

一方、そのころ雪にはモルガンとの話が持ちあがっていた。何の目安も立たぬ恋であるがゆえに雪の心もまたゆらめいた。

しかし、最後に肉親や、お茶屋の女将の意志に押されどうしてもモルガンの妻にならねばならぬ窮地に追い込まれた時、四万円という世界中が驚くほどの巨額の落籍料をモルガンに吹っ掛けたのは、雪の俊作に対する断ち切れぬ未練からであったに違いない。

四万円という高値では、モルガンもきつと手が出まい俊作との間がどうなるかわからないが、とにかく、最後まで後悔することがないように俊作との恋をつらぬくのだ。それが雪の胸の内であった。しかし、モルガンは落籍料四万円を放り出して雪を自分のものにしてしまったのである。

慟哭が雪の胸をゆすりあげた。断ち切られた俊作への思慕の切り口から、紅い血がどくどくと流れ出すようであった。空蟬——。そんな言華がびたりする心境であった。

しかし、雪の悲しみをよそに、世間はこの事件で湧きたった。

「降るアメリカに袖ぬらす祇園美人

鴨東の名妓お雪と富豪モルガン

これで男が立つか京大生山下俊作」

雪とモルガンの婚約が決定した直後、街に氾濫した新聞の見出しの一つである。

雪の時代から、およそ三十年を逆のぼる幕末のころ、横浜の岩亀楼という女郎屋に喜勇と呼ばれる遊女がいた。喜勇は全盛のころ、日本にやって来た米人にいい寄られ窮地に追いこまれた時

露をたに嫌う大和のおみなえし

降るアメリカに袖はぬらさじ

と、いさぎよい辞世の歌を残して自害して果てた。それにくらべて、祇園の名妓、雪のなんと骨のないことが

と、新聞も世間の人々も美望と蔑視を織りまぜて、はやしたたのであった。

後年、雪はたいそう人嫌いになり、ことに新聞社や雑誌社のインタビューと聞くと、途端に美しい眉をひそめ面会を拒むようになったのであるが、その種は、たぶんこの時期、モルガンとの婚約当時にまかれたものであろう。

そんな彼に、雪との思い出はどのような陰影を彼の青春のページに作っていたのか。彼は生涯雪のことを、親しい友人にも語らなかつたといわれている。

日本に里帰りして、一の谷の山荘に住む雪の耳に、日本の実業界で活躍している俊作の近況を知らせてくるおせっかいな昔友達もあった。しかし、雪はいま、わずかの心の動揺もおぼえなかつた。ただ大切なのは、これからのモルガンと雪のしあわせであった。

横浜のオリエンタル・ホテルで、二人の結婚式が行なわれた翌日の都新聞は、モルガンの喜々とした様子にひきかえ、雪の面影を、

鬢のほつれ毛、青緹めた頬を撫で、梨花一枝雨を帯びたる風情——

と、書きしるしている。

このような雪の悲しみにひきかえ、俊作はどうであったか。

モルガンと雪の豪華な結婚式が行われたことが新聞にぎわした日、俊作の学級では、ローマ法の卒業試験であった。彼は平生と少しも変らぬ様子で試験にのぞみ、その後、優秀な成績で大学を卒業したと伝えられている。

社会に出てからの彼は、着実に自分の地位を堅めてゆき、大正十一年の暮、死亡するころには、東京ガスの常務取締役をはじめとして、五つか六つの肩書きを持った実業家となっていた。